

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 西成区
学校名 岸里小学校
学校長名 庄司 量士

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・岸里小学校では、第6学年 54名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

[国語]

本校の平均正答率は62%で、市平均正答率65%・全国平均正答率66.8%には少し届かなかった。対全国比は、昨年と同じ0.93ポイントであった。

[算数]

本校の平均正答率は52%で、市平均正答率58%・全国平均正答率58.0%を下回る結果となった。対全国比では、0.05ポイント上昇し、0.90ポイントであった。

[理科]

本校の平均正答率は54%で、市平均正答率55%・全国平均正答率57.1%には少し届かなかった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

言葉の特徴や使い方に関する事項については、全国平均であるが、A「話すこと・聞くこと」については、全国や市の平均を大きく下回り（7～9ポイント）、課題があることがわかった。

[算数]

いずれの領域においても、平均正答率は全国や市の平均を4～8ポイント下回っており、また、記述式の正答率及び無解答率に課題があることがわかった。

[理科]

「生命」を柱とする領域については、全国や市の平均を3～4ポイント上回っている。一方で「エネルギー」を柱とする領域については、4～8ポイント下回り課題となっている。

質問調査より

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」について、全国や市と同様の回答傾向となった。

「自分には、よいところがあると思いますか」については、全国や市よりも肯定的な回答は約14ポイント下回り、自尊感情に課題がみられた。

学習活動では、「算数の勉強は好きですか」について、肯定的な回答をする児童の割合が全国や市の平均を大きく下回った。（マイナス10ポイント以上）算数科の学習意欲の向上は、昨年に引き続き大きな課題となっている。

今後の取組(アクションプラン)

[国語]

友達と交流する場面を設定し、自分と他者の意見を比べて学びを深めること、他者に思いを伝えるために自分の考えを発表する他者意識を育む為に、ペアやグループでの協働的な学びに取り組むことを継続する。

[算数]

朝の学習等短時間学習におけるC B T化等 I C T機器を活用して、個に応じた指導を充実させ、一人ひとりが学びに向かう姿勢を大事にする。授業づくりにおいては、子ども主体の学びを展開する観点で、教職員のチーム作りをすすめて協働的に教材研究を行う。

[児童質問紙]

生活面、学習面ともに学校と家庭が連携しながら取り組むことが引き続き必要である。学校という集団生活の場で、他者意識をもち、人と人とがつながり、自己理解を深めることを念頭に指導支援を進めていく。
